

○議長(前原英石君) ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

1番 小杉知弘君。

○1番(小杉知弘君) 1番小杉知弘です。一般質問の前に簡単にご挨拶をさせていただきます。

先月末の補欠選挙にて当選させていただきました小杉知弘と申します。村民の皆様が作り上げてきた舟橋村のたくさんの魅力を、さらにすてきな魅力になるよう、もっとすてきな魅力になるよう村政に関わらせていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、通告どおり2点質問をさせていただきます。

まず1点目は、こども医療費助成の年齢制限についてです。

現在15歳年度末までの助成を18歳年度末まで引き上げることにに関して、村長のご意見を伺わせていただきたいと思います。

本村は富山市のベッドタウンとして子育て世代が多く住んでおり、安心して子どもを産み育てられる環境づくりが村の総合計画においても重要課題として位置づけられています。私も2児の父親として村の子育て支援に大変お世話になっております。

子育て支援の充実が舟橋村の魅力の一つであることは間違いありませんし、アンケートでも村内外に発信すべきものとの回答が3割を超えているようです。

現在、主な支援として、妊産婦や乳幼児に対する健診の充実、乳幼児に対する医療費の助成、子育てサポーターの養成、延長保育や病児保育、学童保育の実施などが挙げられ、小学校低学年までの支援は非常に充実していると思います。

一方で、小学校高学年以上の子どもを持つ親に対する経済的な支援は改善の余地があるのではないかと考えます。

少し古い資料になりますが、2005年の内閣府による「社会全体の子育て費用に関する調査研究」において、子ども1人当たりの子育て費用は0歳から5歳までは年間115万円であるのに対し、15歳から17歳では2倍に近い218万円となっています。

先ほど田村議員も話されていましたが、このことから、より年齢の高い子どもを持つ親への経済支援が非常に大切であることがお分かりいただけたと思います。

また、県内の市町村においては、滑川市、黒部市、小矢部市、入善町、朝日町が既に通院、入院とも18歳年度末までの医療費助成を行っています。全国的に見ても、全国

1, 7 4 1 市町村のうち約半数の 8 9 2 市町村が入院に対する助成を行っています。

子育て支援の充実を掲げる本村にとって、1 8 歳年度末までの医療費援助は必須であると考えます。

物価の上昇や電気料金の値上げなど家庭の出費が増える傾向にあり、ますますの家計への圧迫が懸念されます。まずは、どんな家庭の子どもでも平等に医療が受けられる体制を整えていただければと思います。

以上がこども医療費助成の年齢制限を上げることに対する質問になります。

次に 2 点目の質問です。2 点目は道路整備に関する質問です。

総合計画において快適で安全な道路整備がうたわれておりますが、ここで示されている計画性について、具体的なビジョンとといいますか、長期的な構想があれば教えてくださいと思います。もしそういったものがないようであれば、長期的な構想を策定する検討委員会等の設置が必要と感じますが、この点についてご意見を伺わせていただければと思います。

私は役場に来る際、竹内の交差点から駅前を通り役場に来ます。歩道部はタイルで整備され、夜も暖かいオレンジ色に照らされてすてきな景観をつくっていると思います。舟橋村の景観の中で私が好きな場所の一つになっています。

しかし、もう少し丁寧に観察したり、もう少し範囲を広げて村全体を観察した場合はどうでしょうか。歩道部のタイルはかなりの量が割れています。補修されている箇所もありますが、タイルの色が違っていたり、場所によってはコンクリートで埋めただけといった場所もありました。また、富山県道を外れると、タイル舗装ではなくなってしまうのも残念なところでもあります。

街灯については、竹内の交差点から中学校まで、それからオレンジロードはおしゃれなオレンジ色の街灯ですが、村内のそれ以外の範囲に至っては白色のLEDライトが増えています。

私が本日お話ししたいのは、破損部はすぐに直してください、村道も県道と合わせた舗装にしてください、街灯の色はそろえてくださいといった短期的な話ではなくて、もう少し長い目で、村の道路をどのように管理して造っていくかといったことを議論すべきではないかということです。村長が先ほど答弁で話されていたように、再生ではなく創生ということになると思います。

例えば先ほどお話ししたタイルの破損ですが、このままつぎはぎの補修を続けるのか、

それとも新しい材料に更新していくのか、もしくはタイルではなく、水害に対応した材料に更新して災害対策を同時に行うこともできるかもしれません。

街灯に関しても、街灯の光の色を村全体でそろえるのか、それとも地区ごとや道路の特性で色を変えるのか、またこの時期になると暗くなるのが早く、学生が歩行するにはかなり暗い道も散見されます。街灯を増やすといった検討も必要だと思います。当然、街灯を増やせばランニングコストが上がってしまうので、湯めぐち付近のようなソーラー発電タイプの街灯への更新を検討してもよいかもしれません。

ほかにも、ガードレールの色が茶色から突然白に変わる場所があったり、ガードレールの高さが違っていたりする場所もあります。

これから本格的な冬を迎えます。融雪装置の設置も検討する必要があると思います。道路脇の水路の転落防止対策も議論が必要だと思います。当然、各自治会からの道路の補修要請の対応も必要です。お金の議論も必要だと思います。

先ほど話題に出した駅前から古海老江に抜ける道は、村道ではなく県道であるため、県との連携、調整も必要でしょう。

このように道路整備に関することは非常に多岐にわたっており、多方面から議論し考える必要があると思います。

私としては、道路整備において景観や災害対策、村の予算など総合的な目で計画し、長期的な構想を示すことが必要であり、検討委員会等の設置が必要と考えています。

それについて、村長のご意見を伺えればと存じます。

以上2点が私からの質問になります。

ありがとうございました。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） それでは、1番小杉議員の、まずはこども医療費助成の年齢制限の引上げについて、ご質問にお答えさせていただきます。

少子高齢化により人口減少が進む中、全国でも多くの自治体で子ども医療費の助成制度が実施され、子どもの健全な育成と児童福祉の向上に大きな役割を果たしてきております。

舟橋村のこども医療費につきましては、適切な医療を確保し子育て支援を推進するため、舟橋村こども医療費助成に関する条例施行規則第6条により、対象者は乳児から15歳に達する日以後の最初の3月31日とすとなっております。

子ども医療費助成については、全国的にも対象年齢の引上げが要望されてきている中、富山県の自治体の対象年齢を見ると、令和4年10月1日現在、舟橋村を含む4市町村が0歳から中学3年生まで、8市町が0歳から18歳到達後の3月31日まで、3市が0歳から高校生相当までに検討、もしくは今後実施する予定としているという状況でございます。今後も対象年齢を拡大する動きは進むものと考えております。

村では、令和3年3月に改定した第5次総合計画の重点プロジェクトの一つとして子育て・教育環境の充実を掲げており、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組んでおります。

子育て世代が舟橋村で安心して子育てができるよう、こども医療費助成の対象につきましては、引き上げることで対応していきたいと考えておりますので、議員各位のご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

続きまして、道路整備に関する長期的な構想についてのご質問にお答えをさせていただきます。

人口減少、少子高齢化が進む中で今後も続くと思われる厳しい財政状況の中、道路、橋梁などを含めた公共施設に対しての優先順位を設定し、マネジメントをする必要がございます。

今後の道路整備を進める中で、十分な費用対効果を得ることや持続可能なインフラ整備のためにも、令和3年度に舟橋村管内村道実態調査委託業務を実施し、より多くの意見を聴取するためにも、学識経験者をはじめ村議会議員、行政機関、オブザーバーの合計7名の委員を選定し、有識者会議を進めておりました。

令和3年7月29日及び令和3年11月11日に合計2回の有識者会議を開催した結果、すぐに改良を要する路線についてはなかったことから早急な対応の必要性はなかったものの、部分改良の必要な路線が11路線ほか、村道等への承認が必要と思われる路線が1路線、合計12路線が候補路線として抽出されました。

その中で一番優先順位が高かった村道等への承認が必要と思われる路線1路線を令和4年3月18日に村道認定し、現在村道竹内中央線となっております。

今年度は村道竹内中央線道路改良工事の測量設計業務を委託しており、現道幅員3.6メートルに対して今後必要になってくる道路幅員を検討し、令和5年度には拡幅に必要な用地買収を計画しております。その後、令和6年度には道路改良工事を実施する予定となっております。

村道竹内中央線の道路改良完了後は、報告書で提示されている残りの部分改良の必要な路線11路線を中心に、地区の要望等を踏まえて検討していく必要があると考えております。

議員のご指摘の検討委員会の設置につきましては、長期の計画という観点において引き続き対応を進めていく中で、必要とあれば設置を検討していきたいと考えておりますので、議員のご理解とご協力をお願い申し上げて、答弁とさせていただきます。

○議長（前原英石君） 小杉知弘君。

○1番（小杉知弘君） まずは、1点目のこども医療費助成の年齢制限を上げることに対する村長の前向きなご意見、ありがとうございます。

一方で、財政面の問題等ございます。所得制限を設けるのか等々、検討があると思いますが、よろしく願いいたします。

2点目の道路整備につきましては、令和5年度、6年度の道路改良の件、承知いたしました。例えば道路の舗装の中で、通常のアスファルト舗装にするのか、それとも災害対策をするために少し浸透性のあるアスファルトにするのかといったところを、なるべく早く、全体で村として道路舗装をどうしていくのか、長期的なビジョンを決めていく中で、やはりそういう部分的な改良をしていく必要があるのかなと思いますので、ぜひとも検討委員会の設置のほうも進めていただければと思います。

以上です。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 今ほどご質問いただきました検討委員会につきましては、小杉議員のおっしゃるような観点から鑑みて、必要に応じて設置を前向きに検討していきたいと考えておりますので、またご理解のほどよろしく願いいたしますということをお伝えさせていただきます。答弁とさせていただきます。